

農地を保全するエコディストリクトのまちづくりを積極的に推進せよ



自由民主党西東京市議団 遠藤 源太郎

問 コロナ禍の新年度予算編成は、大きな影響が生じるが、新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、目の前の課題に着実に取り組む。

答 家庭内感染が多くなった。マスクなしの会話を始め、5つの場面に注意が必要。PCR検査の拡充等、市民の皆様へのPRに努める。

問 インフルエンザ対策として、学校に1台加湿器を設置した。コロナ対策にもなる。増設を求める。

答 今年度保健室に設置した。使用して効果を検証していく。

問 ネット時代の事務処理。ワンクリックの入力ミスが重大なミスになる。人は間違えるものだ。対策は。

答 現時点では、システムやプログラムでは対応できない部分がある。

最後は、職員がしっかりと確認するなど丁寧な仕事の進め方をする。

問 *エコディストリクトの発想によるまちづくりの積極的な実践は。

答 一般的には、都市における環境負荷の小さいまちづくりの手法だ。市内には多くの生産緑地が点在する。この農地を積極的に保全し、良好な都市環境を維持する。都市計画審議会からも提言を受けている。



エコディストリクトミニシンポジウム

わんわんパトロール、がん検診、ドッグランについて他



自由民主党西東京市議団 小林 たつや

問 わんわんパトロールについて、新しいリードカバーができ、配布が始まったが、市の考えを伺う。

答 市内の関係者が協働して、誰もが安心して暮らすことのできる活動の充実に努めている。獣医師会の協力も得て事業の充実に努める。

意見 現在登録者が149人ということだが、犬の散歩仲間も新しいコミュニティと考え、犯罪防止力の充実に努めてほしい。

問 がん検診について、一部の政党ニュースでは値上げありきの報告があったがどう考えるか。

答 5がん検診、任意型の2がん検診ともに、受診が増加している。胃がん検診は国の指針により精度の高い内視鏡検査の導入を考えている。

意見 内視鏡検査は費用がかさむので利用者負担を考えなければなら

いと思う。一部の報告にあるような単に有料化だけを強調し、検討にブレーキをかけるような行為はいかがなものかと思う。引き続き医師会との協議を望む。

その他質問

◇ドッグランについては、気運の醸成も高まりつつあると思う。今後は獣医師会の協力も得て有料化も視野に入れた早期実現の検討を願う。



わんわんパトロールリードカバー

市民の不安に答えるコロナ対策を！通常学級の教育支援に関する周知徹底を！



生活者ネットワーク かとう 涼子

問 コロナの感染拡大がとまらない。PCR検査センターの開所時間の拡大と土日対応、自費検査の補助など、市民の不安に答える政策を求める。

答 引き続き、医師会との連携による対策を進める。

問 医師会や保健所に市長が無理を言えないのは、その経歴が足かせになっているからなのか。

答 そのようなことはない。発熱外来もPCR検査センターも、医師会等と何度も協議し、設置に至った。

問 障害のある方でも、短時間かつ障害特性が理解されれば働ける方は多い。渋谷区等で先行する超短時間雇用の仕組みを導入できないか。

答 先進自治体の取り組みを調査研究するとともに、庁内における就労訓練等の場の創出を検証する。

問 通常学級に通う支援の必要な子

どもへ、見通しを持った計画的な支援・指導はどう行われているのか。

答 一人一人のニーズを正確に把握し、長期的な視点で教育支援を行うため、各学校が保護者とともに個別の教育支援計画を作成している。

意見 入学して何年も経つのにそのことを知らされていない保護者の方があまりに多い。支援の仕組みを保護者にしっかりと情報提供すべきだ。



少子化でも増え続ける児童虐待 社会全体で子どもと親子を見守ろう！



生活者ネットワーク 後藤 ゆう子

問 2019年度に全国の児童相談所が対応した児童虐待の件数が、過去最高であったと厚労省が発表した。西東京市の現状は。

答 既に昨年度1年間の件数を上回っており、現在も関係機関を中心に多くの情報をいただいている。

問 子どもの居場所の現状は。

答 親子と一緒に過ごせる居場所として市立保育園、児童館、のどか広場やピッコロ広場で実施しているひろば事業がある。市内の子ども食堂でも団体の皆様が感染対策を講じた上で、徐々に食事や食材の提供を再開し、地域の子どもの食の確保と見守り活動を実施していただいている。

意見 感染対策上仕方ないのだが、予約制や定員制限が設けられている居場所もある。コロナ禍で息詰まる

思いをしている親子や子どもが気軽にふらっと立ち寄り、地域の人と安心して会話ができる、ふれあいの場の拡充を求める。

問 有機野菜を用いた給食の要望が全国的に高まっている。見解は。

答 地場産農産物の使用率向上に努めるとともに、有機野菜の活用も念頭に置きながら安全・安心な給食の提供に取り組む。



常任委員会の活動

常任委員会（企画総務委員会・文教厚生委員会・建設環境委員会）では、定例会における議案等の審査のほか、閉会中に所管事項に関する調査研究等を行っています。

ここでは、令和2年に各常任委員会で活動した内容をご報告します。

企画総務委員会	
1月29日	市民参加と情報公開・情報交流について(文書処理の適正化について)
2月18日	徴収率の向上、徴収体制の連携・強化について
8月6日	行財政改革の推進について(公有財産の処分について) ICT施策の推進について(西東京市地域情報化方針について)
11月6日	行財政改革の推進について(公有財産の処分について) 市民参加と情報公開・情報交流について(事務処理の適正化について)
文教厚生委員会	
8月6日	学校施設の適正配置と計画的な整備について(学校施設適正規模・適正配置について) 生涯学習・生涯スポーツ環境の充実について(図書館・公民館耐震改修について)
10月15日	地域福祉・高齢者福祉・障害者福祉の充実について
11月19日	(介護保険料特別徴収の処理の対応状況等について)
建設環境委員会	
10月13日	西東京いこいの森公園「指定管理者による公園管理について」 泉小わくわく公園「公園の防災機能について」

…… [議長公務] オンライン意見交換会(令和2年11月19日開催) ……

西東京市議会議長 田中 のりあき × 東京都市議会議長会会長、小平市議会議長 磯山 亮

コロナ禍での東京都市議会議長会意見書、両市の議会運営の状況等について、意見交換を行いました。

東京都市議会議長会提出議案「新型コロナウイルス対策に関する意見書」について

田中議長 令和2年8月に東京都へ提出した意見書に、本市の提案議案の内容が反映され感謝申し上げます。意見書を受け、9月から保健所より、感染者の性別、年代、療養状況の情報が提供されるようになり、市のHP上で公表している。

磯山議長 市内累計患者数の公表だけであったが、同様に保健所から提供された情報を市のHPに掲載できるようになった。新規患者数が把握できるため、市民の不安が和らいだのではと感じている。

コロナ禍における議会運営について

田中議長 11月まで補正予算が8回上程され、市長の専決処分は行わず、予算特別委員会で審査をしてきた。また、感染症対策

や執行部の状況も配慮した。各会派の要望は議長を通して市感染症本部に送っている。

磯山議長 本市では、5回の補正予算のうち、特例給付金については専決処分を行った。災害時対応指針をもとに、各会派の要望は議長を通して市災害対策本部に送っている。また、各幹事長の意向として、通常の議員活動を控えるなど対応した。



オンライン意見交換会

*エコディストリクト 環境にやさしく人々の健康を応援する持続可能な都市を目指して、1つの地区内で、建物やオープンスペースに加え、緑あふれる街路をつくり、農地を保全し、雨水の活用やエネルギーの供給などの仕組みも導入するまちづくりの取り組み。